

本市の周産期医療を支えた赤木医師 ありがとうございます 赤木医師が退職され、寺本医師が赴任されました

保健医療課医療予防係 ☎0824・73・1155

平成30年度の庄原赤十字病院の産科再開以降、本市の周産期医療を支えてこられた赤木武文医師が3月末をもって退職されました。

赤木医師には、平成29年7月に常勤の産婦人科医として庄原赤十字病院に赴任してからは、365日24時間体制で、安心して出産できる環境づくりに取り組んでいただきました。

平成17年4月以降、13年間休止していた市内での分娩再開後、医療現場の最前線でご尽力いただきありがとうございました。

なお、赤木医師の後任の産婦人科医師については、広島大学病院から寺本秀樹医師が赴任され、4月以降も牧野康男医師とともに常勤医師2人体制で産婦人科の診療が行われています。



赤木武文医師からメッセージ

2017年7月1日に三次中央病院を早期退職し、庄原赤十字病院に赴任しました。切迫流産・切迫早産・妊娠悪阻など、入院が必要な場合の入院管理、婦人科の経膈的手術（おなかを切らず、膈から治療を行う手術）などを行いました。

産科再開に向けて、中島浩一郎院長をはじめ、看護部長、事務部長などの尽力により、助産師の応援依頼（高松日赤病院・岡山日赤病院・三次中央病院）をしていただき、庄原市からの支援により、病室の改装、産科機器の整備などを行い、2018年5月から分娩を開始しました。

初年度は64件の分娩がありました。そのうち帝王切開は22例でした。帝王切開時の手術応援には、三次中央病院医師、当院外科医師に手伝ってもらいました。麻酔科・小児科・手術室も快く対応していただきました。

2019年4月には、松江日赤病院から助産師の応援もあり、2019年は129件の分娩がありました。

ました。

2020年4月からは沖繩南部病院から牧野先生が赴任され、2人体制になりました。牧野先生は産婦人科診療ガイドラインの委員もされており、胎児超音波検査にも精通されています。2020年は119件の分娩がありました。

自分自身は神石高原町で生まれました。両親は2015年、2016年に亡くなりました。妻の実家は大阪で、義母が87歳で1人暮らしをしています。今回庄原赤十字病院を退職して、義母の近くに引越すことにしました。

本年度で産婦人科医師になって40年たちますが、約30年は三次・西城・庄原で仕事をさせてもらいました。皆さんに産婦人科の医師として育てていただいたと感謝しています。本当にありがとうございます。



赤木先生に子どもを取り上げてもらった方から一言

坂田智彦さん・和稀さん

昨年3月に長女を取り上げていただきました。

私たち夫婦



にとつては初めての子どもで、妊娠・出産に当たっては不安が大きかったのですが、赤木先生の豊富な経験と温かい人柄に触れ、安心して妊娠期間を過ごすことができました。

休日や夜間に体調に異変があったときにも、すぐに対応していただき、市内に産科があるということは本当にありがたいことだと実感しました。

休日の早朝から陣痛が始まり、次の日の夕方に出産という長丁場でしたが、迅速な判断で処置をしていただき、元気な産声を聞くことができました。

実は赤木先生には、私（智彦さん）の妹も取り上げていただいたと母から聞きました。他にも、私の知っている人をたくさん取り上げてくれたのだと思います。

赤木先生や、産科に携わってくださった方々により、地域が支えられていると実感しました。

これからも、市内の産科が存続していくことを願います。

赤木先生、ありがとうございます。